

重点的な取組の評価と今後の展開

①地域共生社会を実現する上での基礎となる、“つながりづくり”

【評価】

複雑化・複合化した課題への対応等を目的とした、重層的支援体制整備事業を令和4年度から本実施するに当たり、今年度は移行準備期間として、実施体制や運用方法等について、検討を重ねている。

【今後の展開】

- ・令和4年度から、重層的支援体制整備事業を実施。また、次期計画策定に当たっては、本事業と地域包括ケアシステムとの整合性を図り、地域共生社会を発展させる内容としていく。
- ・地域のコミュニティや民間との連携体制等について、十分に検証し、既存の強みを活かしつつ、不足している部分を改善させるための施策を検討していく。

②困ったときに誰もが気軽に相談できる、“相談体制づくり”

【評価】

- ・様々な分野の相談機関と相談者をつなぎ、課題解決に向けた支援をすること等を目的とし、令和2年に丸ごと相談窓口を創設。
- ・複雑化・複合化した課題への対応等を目的とした、重層的支援体制整備事業を令和4年度から本実施するに当たり、今年度は移行準備期間として、実施体制や運用方法等について、検討を重ねている。

【今後の展開】

- ・令和4年度から、重層的支援体制整備事業を実施。また、次期計画策定に当たっては、本事業と地域包括ケアシステムとの整合性を図り、地域共生社会を発展させる内容としていく。
- ・ほっとネット推進員などの地域で活動しているの方々に対する支援の充実を図るため、必要な支援についての情報収集を行う。

③必要な情報を必要な人に分かりやすく提供していく、“情報発信の工夫”

【評価】

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、SNS等を活用した情報発信を実施。

【今後の展開】

市からの情報発信及び地域内の情報共有を更に進めるため、庁内外で実施できる情報発信・共有の手段を検討し、積極的に活用していく。また、このような新たな手段の検討は、新型コロナウイルス感染症収束後も必要なものと捉え、継続して、進めていく。